

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 高橋 賢さん（北上市）

取材担当 中部農業改良普及センター 南川 彩

中部農業改良普及センター管内の新規就農者受入経営体の高橋賢さんを紹介します。

高橋さんは、北上市相去町の農地6haで、年間を通して数十品目の野菜を栽培するほか、イベント出店や、通販、飲食店への直接販売などに取り組んでいます。

東日本大震災をきっかけに兼業農家だった実家を継いで就農した高橋さん。「自らの経験を活かして、北上市で新規就農する方を応援したい」と令和4年度に新規就農者受入経営体に登録し、現在、研修生1名を受け入れています。

研修生には、「県外出身で農業経験の無い研修生が、地元出身で親元就農する方との差を埋めるためには何をすべきかを常に考え続けること」「聞いた話や作業の一つ一つをきっかけとして、物事の本質的な仕組みを理解し、様々なことに違和感を持つようにすること」といった、高橋さん自身が常に意識していることを伝えながら、栽培・経営管理や農機具の扱い方等の習得を後押ししています。

「1年目は、きゅうりとかぼちゃの苗の違いもわからなかった」と話す研修生の渡邊さん。「高橋さんとたくさん話をしながら学ばせていただいていることで、直接携わらなかった作業や作物管理にも応用できる力が少しずつ身に付いてきている実感が」と、就農に向けての自信をのぞかせています。

高橋さんは、市内他地域で営農開始する研修生が、いち早く地域になじみ、経営に集中できるよう、就農予定地の農業者を紹介するなど、受入経営体としてできる支援を惜しみなく続けています。高橋さんの元で指導を受けた研修生の就農と、今後の活躍が期待されます。



高橋さん（奥）の指導を受ける研修生の渡邊さん（手前）



高橋さんから説明を受けながらケールの生育状況を確認